

もし、被災したら…

安城市内のライフラインは…

種類	被害世帯(割合)	復旧に要する期間
断水	4万6857戸(87%)	40日
停電	1万4858戸(17%)	7日
都市ガス	1万9220戸(37%)	20日
LPGガス	6383戸(8%)	—
電話	5076戸	20日

被害状況の比較

被害内容	阪神大震災	東海・南海・東南海連動型地震 ()内は安城市の被害
建物	約25万棟	51万～57万棟 (1万棟)
死者	6434人	2万2000人～2万8300人 (40人)
負傷者	4万3792人	— (2100人)
避難者	30万人超	— (3万6000人)

震度6程度の地震で想定される被害

震度階級	6弱(市域の約86%)	6強(市域の約14%)
人間	立っていることが困難になる。	立っていることができず、はわないと動くことができない。
屋内の状況	固定していない重い家具の多くが移動・転倒。開かなくなるドアが多い。	固定していない重い家具のほとんどが移動・転倒。戸が外れて飛ぶことがある。
屋外の状況	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損・落下。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損・落下。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
木造建物	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。
ライフライン	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。	ガスを地域に送るための導管、水道の配水施設に被害が発生することがある。

近年起こった主な地震

- 十勝沖地震 (平成15年／M8.0、最大震度6弱)
- 新潟県中越地震 (平成16年／M6.8、最大震度7)
- 福岡県西方沖地震(平成17年／M7.0、最大震度6弱)
- 能登半島地震 (平成19年／M6.9、最大震度6強)
- 新潟県中越沖地震(平成19年／M6.8、最大震度6強)



被災地で炊き出しを行うボランティア



震災により延焼する木造家屋(中谷満氏撮影)

巨大地震がやってくる

1月17日は何の日か知っていますか？平成7年のこの日、淡路島を震源としたマグニチュード7.3の大地震が発生。兵庫県を中心に、大きな被害が出ました。世に言う「阪神・淡路大震災」(以下、阪神大震災)です。
あの未曾有の大惨事から、13年。今度は、わたしたちの住むこの東海地方にも、これを超える地震が発生しようとしています。その名を「東海・南海・東南海連動型地震」と言います。
この迫り来る巨大地震から身を守るには、何をすればよいのでしょうか？まずは、この地震を知ることから始めましょう。



知る 被害予測
東海・南海・東南海連動型地震の被害予測は、死者約2万7000人。阪神大震災の6400人を大きく上回ります。また、水や電気など、ライフラインの被害も、広範囲かつ長期に。店舗の営業や流通まで影響が及び、物資の不足も心配されます。
安城市は、この地震で震度6弱～6強の揺れに見舞われると予想されます。この状況では、自分の身を守るのが精一杯。
事前に地震対策を取っていないと、被災後の生活は苦しいものとなってしまいうでしょう。



道路を塞ぐ倒壊家屋

問い合わせ
防災室

考える 環境の変化

この地域は、昭和20年に三河地震に被災しました。それから約60年。この間に、生活は大きく変わりました。当時に比べ、便利になった反面、防災力が弱くなった印象が残ります。

＜60年で変わったもの＞

- ①建物の耐震性が強化
- ②家に物があふれ、転倒の危険が増加
- ③新・炭・井戸・くみ取りトイレは、電気・ガス・水道・水洗トイレへ
- ④情報源は、ラジオやテレビ、携帯電話など
- ⑤核家族化が進み、高齢者世帯が急増
- ⑥自助や連帯性を機軸としていた国民性は無関心へ変化。行政依存が進む

備える 命を守るために

現在の生活様式が抱える防災上の問題は、行政が働きかけるだけで解決するものではありません。皆さんの行動が決めます。

■揺れに備える

昭和56年5月以前に建築した

■被災後に備える

被災後は、避難所で生活しなければならぬ可能性もあります。避難所では、一人ひとりの占有面積も限られ、共同生活による精神的な負担も考えられます。

しかし、水や食料を備蓄し、簡易トイレなどを用意しておけば、自宅での生活も可能となります。日ごろからの準備をぜひ、お願いします。

■人間関係で備える

大規模な災害には、個人や家族だけでは対応できません。近所の助け合いや日ごろからの人付き合いが大切です。地元の自主防災組織へ、積極的に参加しましょう。